

## 大阪府淀川におけるチャネルキャットフィッシュの現状

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター  
山本義彦・山口翔吾・今川愛佑美・鬼追良隆

大阪府を流れる淀川では、近年、特定外来生物チャネルキャットフィッシュ *Ictalurus punctatus* の捕獲事例が増加している。そこで、本研究では本種の生息状況を把握するため、延縄による捕獲調査を行った。

調査は、宇治川、木津川および桂川の三川が合流する地点から淀川大堰までの淡水域において、広域調査として2020年9月に7地点、2021年9月に5地点で実施した。また、これら地点のうち、中間に位置する高槻市地先の1地点では、定点調査として2020年4月から2021年3月、および2021年5月～12月にかけて毎月の調査を実施した。延縄は幹縄30mに釣り針を10本取り付け付けたものを1セットとして、1地点あたり5セットを夕方から翌朝にかけて水底に設置した。捕獲個体は持ち帰り、体長を測定し、解剖して胃内容物を観察した。また、生殖腺の形状から雌と判定した個体の生殖腺重量指数（GSI）を算出した。

広域調査では2020年に7地点中6地点で21個体、2021年に全5地点で21個体が捕獲された。定点調査では、2020年の5月から11月にかけて23個体が捕獲され、うち8月12日の10個体が捕獲数のピークであった。2021年は5月～11月に11個体が捕獲され、9月30日の5個体がピークであった。これら両年に捕獲された個体の体長は、300 mm 以下が5個体（最小257mm）、301～400 mm が32個体、401～500 mm が24個体、501 mm 以上が7個体であった。

2020年に捕獲された41個体について、25個体で胃に内容物が確認され、16個体は空胃であった。内容物は、甲殻類、陸生昆虫、貝類、および魚類が多く、確認頻度はそれぞれ17%、17%、15%、および15%であった。他にも、水生昆虫、植物片、ビニールが確認されており、雑食性で様々なものを摂餌していた。また、5月から9月にかけての雌のGSIは、9月を除く月で比較的高い値を示す個体があり、淀川における本種の産卵期が5月から8月と、霞ヶ浦（5月から7月；遠藤2007）よりも長期であることが示唆された。なお、今回の延縄調査では295mm以上の個体のみが採取されたが、当センターが実施した2020年10月の調査では体長100mm以下の幼魚が捕獲されており、生殖腺の発達状況と併せて淀川での繁殖を裏付けるものと考えられる。以上のことから、本種は既に淀川の本流の淡水域のほぼ全域に分布し、幅広い生物を摂餌し、繁殖していることが示唆された。

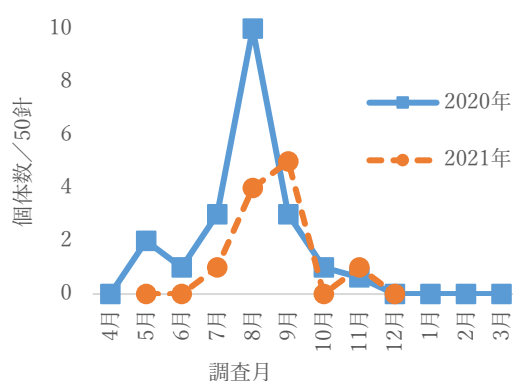


図1. 定点調査における捕獲個体数推移  
※2021年8月は増水のため9月初旬に調査を延期し、8月分とした。